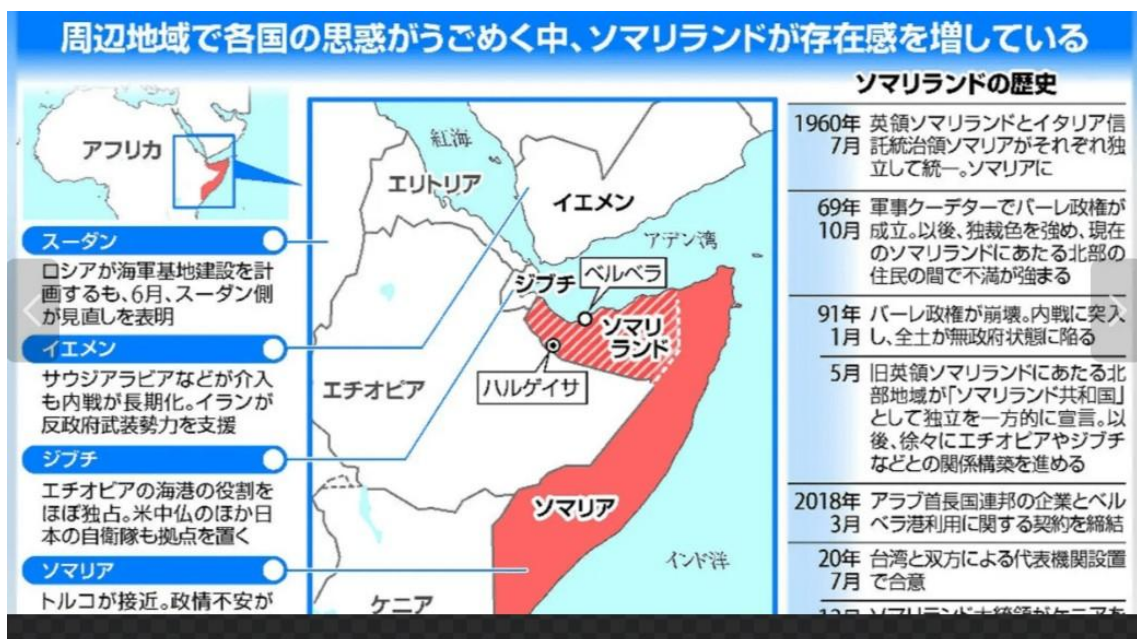


ソマリランドの国家承認（632号）

2026年 1月 石館

ソマリランドはどこにあるかご存じない方が多いと思います。ソマリランドは1991年にソマリアから独立の宣言をしたが、国際社会からの国家承認は得られていなかった。ところが2025年12月29日、イスラエルがソマリランドを“独立した主権国家”として正式に承認し、外交関係樹立協定に署名したことが報じられた。



ソマリランドは、ソマリアの北西部の沿岸地域に位置する未承認国家である。人口は約400万人、面積は約17万平方キロで日本の約4割である。もともと英国の植民地であったが、1960年に内陸のイタリアの植民地地域と統合して独立し、ソマリアとなった。その後、1969年のクーデターで権力を掌握したバーレ大統領が1991年に失脚すると、ソマリランドはソマリアからの独立を宣言した。

小生はソマリアの隣国であるケニアと海を隔てたイエメンには行ったことはあるが、ソマリア及びソマリランドには行ったこともないし、どの様な国かという知識もない。今回突然イスラエルがソマリランドを独立国家として承認した背景及びソマリア、ソマリランドについて調べてみることにした。

ソマリア政府は1991年の独立を認めなかったが、ソマリランドはその後約20年間続いたソマリア内戦の混乱の中で、独自の軍隊と通貨を保有し、大統領選挙を含む様々な選挙を単独で実施しながら、独立政府を運営してきた。治安状況もソマリア本土より安定しているという評価を受け、地域内には“一つの国家として認められる資格がある”という声が継続的に上がってきた。



ソマリランドの首都ハルゲイサ

国際社会で国家承認を得ようとするソマリランドの努力に、最初に応じた国がイスラエルだった。

イスラエルが突然ソマリランドを国家として承認するに至ったのには勿

論何らかの理由があった。その一つの大きな理由は、ガザ地区のパレスチナ住民をここに移住させようとする事前作業ではないかという見方が有力である。またイスラエルがソマリランドに軍事基地を作ることを考えていることも否定できないであろう。

ソマリランドはインドネシア、南スーダン、リビア、ウガンダなどと共に、イスラエルと米国がガザ地区のパレスチナ住民の移住案を協議した国家の一つと言われる。

周辺国は、ソマリランドを国家として承認すれば、アフリカ全域で民族構成などを理由にした分離独立要求が連鎖的に広がり、混乱が生じる恐れがあると懸念している。アフリカ・中東の20あまりの国とイスラム協力機構は共同声明を出し、“イスラエルの措置は国際平和と安全に大きな影響を及ぼす”として反発した。

イスラエルの最も強固な同盟国である米国も、反対の立場を示した。米務省は“米国はソマリアの領土的一体性を認める”とし、“ソマリアにはソマリランドの領土が含まれる”と明確に表明した。EUも“国連憲章とアフリカ連合憲章、ソマリア憲法に基づくソマリアの主権と領土的一体性の重要性”を再確認する声明

を発表した。しかし奇異に思うのはイスラエルは米国やEUのこのような反応は当然分かっていたはずであり、その中で敢えてこの時期に強行したのはどのような確信があったのであろうか。

ソマリランドの大統領府は声明で“国際的な正当性を求めてきたソマリランドにとって一里塚になる”と歓迎し、イスラエルとの国交樹立を通じて“中東・アフリカ地域の平和に貢献する”と強調した。



多くのソマリア難民、ケニアへ避難を続ける | UNHCR 日本

ここでソマリアについて簡単に述べるが、ソマリアは、アフリカ大陸東部の“アフリカの角”と呼ばれる地域に位置している。面積は日本の約1.8倍、人口は1900万人。

1990年代以降続く内戦や治安の不安定化、武装勢力によるテロ、さらに長年による干ばつや食糧不足は、子供たちやその家族の

暮らしに深刻な影響を及ぼしてきた。

なかでも、女の子や女性の権利は性別を理由に軽視されがちで、不平等な慣習や社会構造の中で困難な状況に置かれている。

ソマリアでは国民の大多数がイスラム教スンニ派を信仰しており、宗教は人々の価値観や日常生活、社会規範に深く根付いている。ラマダンなど宗教行事や慣習は、教育や婚姻制度にも影響を与えている。文化面では、氏族社会や相互扶助の精神が特徴で、遊牧文化に由来する生活様式も見られる。

ソマリア沖、アデン湾は、アジアとヨーロッパを結ぶ海上輸送の大動脈である。毎年、日本に関係のある約2,000隻を含む、およそ20,000隻の船舶が通過している。ここでの海賊活動は2011年頃237件とピークを迎え世界の海賊発生件数の半分以上を占めた。日本の海上自衛隊の対処行動や国際社会の対策と共にソマリアの政情安定により2012年以降海賊活動は大幅に減少した。

何故ソマリアで海賊が急増したのであろうか。ソマリア沖の豊かな水産資源



海賊・誘拐がソマリアの主要産業に：今年の「儲け」はすでに30億 ...

が先進国の漁船に荒らされ漁業で生活できなくなったからとか、身代金を武装闘争の資金源にするためとも言われているが、根底には、海賊を生業にするしかない経済状況と、犯罪を取り締まる機能のない無政府状態がある。

イスラエルのサール外相は2026年1月6日ソマリランドの首都ハルゲイサを公式訪問大統領のアブドラ氏と会談した。ソマリアはサール氏のソマリランド訪問に強く反発している。サール氏は“イスラエルとソマリランドの関係を力強く前進させる決意だ”と訴えた。一方ソマリア外務省はサール氏のソマリランド訪問は内政に対する“受け入れがたい干渉だ”という声明を発表した。

ソマリランドの独立が国際的に承認されるかは、まだ不透明な状況である。特にアフリカ連合の国々は、独立を認めることは、アフリカ大陸の国境変更の先例になることや、自国内に分離独立運動を抱える国々がソマリランド独立に反対している。しかし、イスラエルによる承認は、この状況に新たな展開をもたらす可能性がある。